

2026年度五山送り火グッズの作画を担当いただいた池上真紀さんにお話をうかがいました。

ー今回作画を担当いただくことになった際のお気持ちを聞かせてください。

私はもちろんですが、娘が大喜びでした。娘は京都五山送り火を鑑賞するのが大好きなんです。遠足などで大文字山に登ったり、送り火を眺めていたときにテレビ取材を受けたことがあったりと、いい思い出があるんでしょうね。

大学入学から京都で暮らしていますが、実は毎年必ず京都五山送り火を見に行くようになったのは、娘が生まれてからなんです。当時、平安神宮のあたりに住んでいて、大文字の炎の揺らめきまで見える地域でした。それから家族で京都五山送り火を見に行くのが習慣になっています。

ー制作にあたり、テーマやイメージはありましたか？

京都五山送り火は、ご先祖様を冥府に送る仏教的行事なので、儀式的で神秘的な雰囲気を出したいと考えた色使いになっています。

また、私は普段の制作から「白」を大切にしていて、白い色で「内に秘めた光」を表現しています。夜というシチュエーションなので山をシルエットとして影で表現するのが一般的かと思いますが、山を主役として扱いたくて、あえて白色で表現しています。

ー素材や技法など、制作のなかでこだわった点はありますか？

現代は、額装して壁掛け展示が一般的であり、ある程度距離をとって絵画を鑑賞するスタイルが多いかと思うのですが、昔は机上などの近い距離で鑑賞することが多かったという特徴がありました。だからこそ細密に描き込まれているんですね。私もそれを意識して制作しています。

大学卒業後、6年間で培った文化財修復の技術を生かしたいという気持ちもありました。和紙や絹などの修復・修繕を行っていたのですが、古画の魅力として、作者が意図した表現以上のものがあると思っています。例えば、掛け軸なら巻いた際につく柔らかな巻きシワや筋（すじ）といった大切に扱われてきた歴史や、時間の経過とともに生まれる自然な風合いなどですね。

今回、全体でそういった雰囲気をつくり出すために、和紙の上にくしゃくしゃにした別の和紙を貼っているんです。するとしわの山の部分はくつつかず、谷の部分はベースとなっている和紙にくつつきますよね。その山の部分をサンドペーパーで削り取ることで、古画のような質感を表現をしています。

池上 真紀 IKEGAMI MASANORI

<主な経歴>

1987年 兵庫県生まれ

2013年 京都市立芸術大学大学院美術研究科保存修復専攻修了
京都市立芸術大学作品展 大学院市長賞（同12年）

2013年～2019年 文化財修復技師として活動

2020年 京都 日本画新展 優秀賞（同21年、23年）

2024年 第9回日経日本画大賞展（上野の森美術館/東京）

2026年 今後の展覧会情報



[個展]

・9月15日（火）～9月20日（日）

池上真紀-浄土をみつめて-（ギャラリー恵風1.2階）

[グループ展]

・8月29日（土）～9月27日（日）

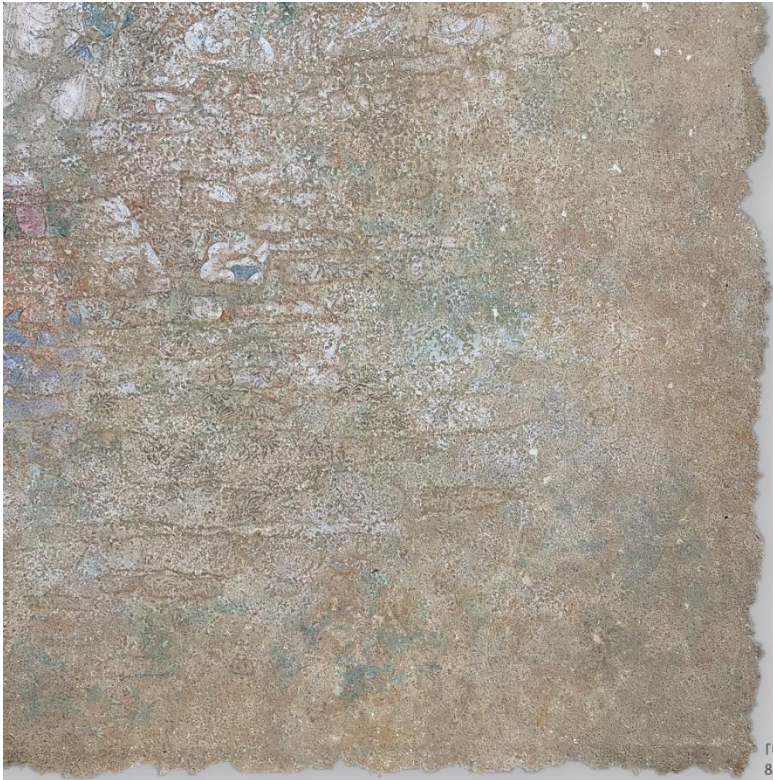
タイトル未定（白沙村荘橋本関雪記念館）

・9月1日（火）～9月10日（木）

生動in仁和寺（仁和寺）

・10月13日（火）～10月18日（日）

生動（京都市美術館別館 第二展示室）



池上真紀
浄土をみつめて

2026
9.15(火) — 9.20(日)
12:00 — 19:00 [最終日は
18:00まで]

助成 公益財団法人吉野石膏美術振興財団

「いたみ」
87.5cm×87.5cm

GALLERY KEI-FU
恵風

世界遺産
真言宗御室派総本山

仁和寺御所庭園／黒書院



9.1
(火)

9.20
(日)

生動

in 仁和寺

第4回 日本国際芸術祭

御所庭園内 黒書院

9:00 - 17:00 (最終入場16:30)



入場無料

※仁和寺御所庭園拝観料1000円が必要です
※次世代文化支援として高校生以下無料

9.1(火) — 9.10(木)

池上真紀 | 岩井晴香 | 北島文人 | 三好温人

9.11(金) — 9.20(日)

木岡史 | 北川咲 | 監物紗羅 | 清水葉月



主催 | 一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構 特別協力 | 世界遺産 真言宗御室派総本山 仁和寺

JIAF
日本国際芸術祭
Japan Annual International Art Festival

嵐電(京福電鉄)「御室 仁和寺駅」徒歩3分
路線バス「御室仁和寺」下車すぐ
駐車場: 仁和寺東側、24時間営業コインパーキング有り



生動 2026

京都市美術館別館 第2展示室
2026年10月13日(火) - 10月18日(日)

10月13日(火) - 10月18日(日)

10:00 - 18:00

入場無料

出品作家 池上真紀 岩井晴香 木岡史 北川咲 北島文人 木村真光 監物紗羅
後藤吉晃 清水葉月 竹下麻衣 戸田淳也 西川礼華 堀花圭 三好温人 八木佑介

我々は、2017年に日本画グループ生動として活動を開始しました。
ギャラリーでの展示を中心に活動を行い、2022年より新たに
大作展示を目的として再始動しています。精力的に活動する若手
を中心とした大学や団体を越えた15人のメンバーで、この度
京都市美術館別館にて展示をさせて頂く運びとなりました。



@SEIDOTEN

ギャラリートークの詳細
開催時刻等は
Instagramから
ご確認ください

ギャラリートーク
10/17(土)、18(日)



協賛：アズマギャラリー エビスヤ画材 株式会社 中里 画箋堂 株式会社 吉祥 ギャラリー恵風 清晨堂 東洋美商
助成：公益財団法人朝日新聞文化財団